Bull. biogeogr. Soc. Japan
66.233–234.Dec. 20, 2011

日本生物地理学会会報
第66巻平成23年12月20日

和歌山県初記録のベニクラゲ(ヒドロ虫綱,花クラゲ目)のポリプ

久保田　信

*〒649-2211　和歌山県西牟婁郡白浜町459
京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

First occurrence of *Turritopsis* (Hydrozoa, Anthomedusae) polyp in Wakayama Prefecture, Japan

Shin Kubota

Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center,
Kyoto University, 459 Shirahama town, Nishimuro, Wakayama, 649-2211 Japan

Abstract. In August of 2011 *Turritopsis* polyp was collected in Tanabe Bay, Wakayama Prefecure, Japan for the first time as the fifth locality and the morphology of polyp was described with comparison of other materials.

Key words: polyp, new locality, Tanabe Bay, *Turritopsis*, medusa bud position, tentacles.

(要約)
2011年8月に和歌山県田辺湾から発見の難しいベニクラゲのポリプが初めて2群体採集された．日本の他の4地点だけで知られるベニクラゲのポリプの形態と比較した結果，今回のポリプはクラゲ芽の形成位置が北海道産のものと異なり（ヒドロ花の直下），触手数が少し多かった（最多で24本）相違点があった．

はじめに

ベニクラゲ類(刺胞動物門，ヒドロ虫綱，花クラゲ目)は，わが国では北海道から沖縄県まで広く分布し，クラゲの形態で2型が，分子系統学的には3型が区別されている(Kubota, 2005; 久保田, 2007, 2010)．しかし，日本各地でのポリプ採集例は非常に少なく，熊本県，神奈川県，東京都，北海道での散発的な記録があるのみである(Hirohito, 1988; Kubota, 2005)．このような状況の中で，今回，和歌山県白浜町沿岸で少数のベニクラゲのポリプがやっと採集できたので5箇所目の記録として報告し，他の地点のポリプの形態と比較する．

材料と方法

和歌山県田辺湾の様々な基質を約15年余り調査してきた結果，今回，畠島の船着場に設置された海表面に浮かぶブイ2個の裏表面の様々な付着生物の中で，当該ポリプを初めて発見できた．ブイに付着したホヤ類，コケムシ類，フジツボ類，海藻などを食用ナイフで掻き落とし，採取物を数時間以内に和歌山県白浜町に所在する研究室に持ち帰り，双眼実体顕微鏡を用いて検査した．小さな群体だが，2007年8月の11日と31日にそれぞれ1群体ずつ発見できた．どちらの群体にもクラゲ芽がついており，8月11日に採取した群体からは1週間以内にこれまで記載したような未成熟クラゲ(河村・久保

*連絡先 (Corresponding author): shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

田, 2005; 久保田, 2008) が遊離したので, その形態を調査した.

結果と考察

群体の高さは 4 mm 以下で丈が低かったが, 1 回だけヒドロ茎は分岐していた. 触手は最多で 24 本あり, 20 本を超えるものがほとんどだった. 触手が生えているヒドロ花の長さは 1.23mm まで伸長した. クラゲ芽はヒドロ花の直下に生じ, 多いもので 4 個が 1 個ずつ形成されていた (図 1).

これまで熊本県 (牛深), 東京都 (伊豆大島), 神奈川県 (葉山), 北海道 (厚岸) から報告されている群体と比べて, 和歌山県のポリプは触手数がわずかに多く, クラゲ芽の形成位置がこれまではヒドロ茎に通常形成されているものとされていたが, 今回の材料ではヒドロ花の直下の形成であり, 特に北海道産のものとは位置が異なっていた. 北日本と南日本に産するベニクラゲの成熟クラゲは生殖方法や形態で明瞭な相違があるので (Kubota, 2005; 久保田, 2010), 今後, 後者の形質が種を区別する形質の一つになるかどうか精査する必要がある. なお, 北海道以外の 2 地点で深所 (水深 30 – 75 m) から採集された群体は丈が 20 mm 程度になり, ヒドロ茎が多管になっており (Hirohito, 1988; Kubota, 2005: Table 2), 今回の材料は単管であった相違点があるが, このことの意味することは不明である.

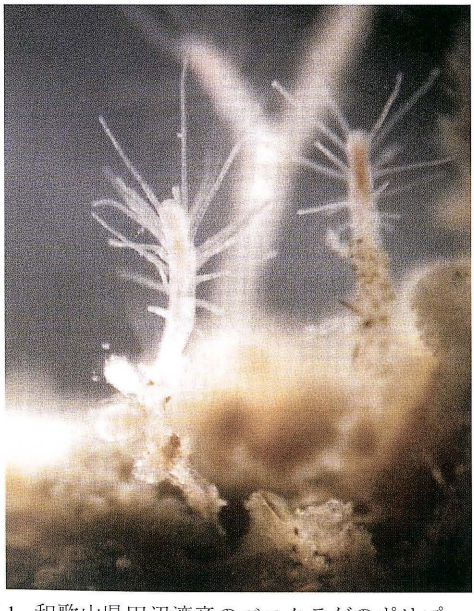

図 1. 和歌山県田辺湾産のベニクラゲのポリプ (クラゲ芽を形成), 触手の生えたヒドロ花の長さは 0.7 mm.

Fig. 1. *Turritopsis* polyp (with medusa buds) collected in Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan, of which length of hydranth bearing tentacles is 0.7 mm.

引用文献

Hirohito, His Majesty the Emperor Showa. 1988. The hydroids of Sagami Bay. 179 + 110 pp., 4 pls., 2 maps. Biological Laboratory, Imperial Household, Tokyo, Japan (In Japanese in part).

河村真理子・久保田信. 2005. 和歌山県田辺湾におけるベニクラゲ (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目) のクラゲ世代の季節消長. 日本生物地理学会会報, **60**: 25-30.

Kubota, S. 2005. Distinction of two morphotypes of *Turritopsis nutricula* medusae (Cnidaria, Hydrozoa, Anthomedusae) in Japan, with reference to their different abilities to revert to the hydroid stage and their distinct geographical distributions. Biogeography, **7**: 41–50.

久保田　信. 2007. 不老不死のベニクラゲ. in 和歌山県立自然博物館 (編), 刺胞をもつ動物—サンゴやクラゲのふしぎ大発見. 第 25 回特別展「刺胞動物展」解説書, pp. 38–39. 和歌山県立自然博物館, 和歌山.

久保田　信. 2008. 和歌山県田辺湾から採集された最小の触手数を有する日本産ベニクラゲ (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目) のクラゲの形態とその成長. 南紀生物, **50**(1): 160-161.

久保田　信. 2010. 不老不死で若返るベニクラゲ類の生活史. 遺伝, **64**(5): 86-92.

(2011 年 9 月 1 日 受領, 2011 年 9 月 26 日 受理)